地域アクションプラン進捗管理シート（抜粋）

参考資料１

※ 特記事項の記載方法
Ⅰ「進捗度（達成度）」
実施計画を超えて進捗した（達成できた）→◎
実施計画どおり進捗した（達成できた）→○
実施計画どおり進捗しなかった（達成できなかった）→△

Ⅱ「進捗（達成）状況及び翌四半期等へ向けての対応方針」
第２四半期については上半期、第４半期については１年を振り返って記載し、次年度へ向けての対応方針についても記載すること

項　目	特記事項	Ⅰ進捗(達成)度※	Ⅱ　進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針　※
No,1 まとまりのあるナスの産地づくり	第１四半期	○	・チーム会を立ち上げたことで、会議の開催などで小回りがきくようになった。そのこともあり、計画に沿った活動ができている。 ・園芸年度の切り替わり時期となる。園芸研究会や品目部会の反省会等を通じて、現状の認識や方向性の共有を関係機関および園芸農家を含めてすすめる。
	第２四半期（上半期）	◎	・チーム会が定期に開催できている。また、研究会活動も、重点地区の「安芸」を中心に計画的に実施できている。 ・園芸研究会の役員改選期にあたっており、22園芸年度の活動がスムーズに進むよう支援する。
No,2 ユズを中心とした中山間地域の農業振興	第１四半期	○	・チーム会を立ち上げJA及び各市町村との計画の共有化ができた。 ・現在の計画は搾汁施設の整備の関係で北川村の活動が中心となっているので、その他市町村の活動を計画に落とし込むとともに、市町村間の連携を図る。
	第２四半期（上半期）	◎	・チーム会により、JA及び各市町村との計画の共有化ができた。 ・各市町村、JAの目標を明確にするためサブシートを作成し、細かな進捗管理ができるように工夫した。
No,3 環境保全型農業の推進	第１四半期	○	・若干の遅れはあるもののほぼ計画どおり進んでいる。遅れているもの（温存ハウスグループの意見交換会など）は、調整等を行い早期に実施していく。
	第２四半期（上半期）	◎	・若干の遅れはあるもののほぼ計画どおり進んでいる。遅れている項目（地域版GAPチェックシートなど）については、関係機関等と十分連携し進めていく。
No,4 西山きんとき芋販売促進事業	第１四半期	○	・実施計画どおり。 ・産業振興アドバイザーの派遣を踏まえ、加工品開発プロジェクトチームを立ち上げ課題・目標を共有する。また、米貯蔵庫内を仕切って芋貯蔵庫として活用するための改造費見積を急ぐ。
	第２四半期（上半期）	◎	・加工品開発班（PT）を編成した。事務局を中心に試作・販売活動を実践している。ただし、産業振興推進総合支援事業申請「芋貯蔵庫整備」は来年度へ先送り。定期的に加工品開発班会を開催し、来年度の事業申請に向けて事業内容と経費等を積み上げる。試食宣伝については今年度実施することから別の事業（県特産野菜コラボレーション事業）の導入を検討し、申請する。
No,5 土佐ジローの生産拡大	第１四半期	△	・建設コストの低減が課題　今後は土佐ジローを核に据えた地域全体の取組体制の整備を支援
	第２四半期（上半期）	△	・事業費の精査等に時間を要し、採択申請に至っていない。事業費を精査するとともに、事業計画についての地元の理解協力や土佐ジローを核に据えた地域全体の取組体制の整備等を中心に支援する。
No,6 特産品「イチジク」による地域の活性化	第１四半期	○	・生産者の代表の入ったチーム会を立ち上げ、今までの課題の洗い出しや今後の活動計画について共有化が図られた。 ・栽培の拡大に向けた取り組みを進めるための住民説明会資料の作成を行うとともに、環境整備を図る。
	第２四半期（上半期）	◎	・ほぼ計画どおりに進んでいる。特に、取組み全体のイメージをチーム内で共有することで目指すべき方向が再確認された。 ・新規栽培希望者に対し栽培前技術指導の徹底を図るとともに、新たな加工品開発に向けた検討を進める。
No,7 森林情報のデータベース化	第１四半期	○	・概ね計画どおりの進捗。 ・引き続き、森づくり推進課、高知東部森林組と協議しながら森林情報の更新を行う。
	第２四半期（上半期）	◎	・概ね計画どおりの進捗。 ・引き続き、森づくり推進課、高知東部森林組と協議しながら森林情報の更新を行う。
No,8 林業再生事業	第１四半期	○	・概ね計画どおり進捗。 ・引き続き実施計画に基づいて実行していく。
	第２四半期（上半期）	◎	・概ね計画どおり進捗。 ・引き続き実施計画に基づいて実行していく。
No,9 上土佐（かみとさ）備長炭販売促進事業	第１四半期	○	・アドバイザー申請書を早急に提出させる ・2つの生産者組合を事業主体として、8月末までに総合補助金の申請を目指す
	第２四半期（上半期）	◎	・審査会へ向けての対応 ・地元自治体の継ぎ足し補助
No,10 木質バイオマス活用促進	第１四半期	○	・木材産業課、市町村、活性化センターとの打合せも概ね予定どおりすすみ、安芸地域の方向性を検討する準備はほぼ整った。 ・実施計画に基づいて勉強会を開催する。
	第２四半期（上半期）	◎	・木材産業課、市町村、活性化センターとの打合せも概ね予定どおりすすみ、安芸地域の方向性を決めた。 ・実施計画に基づいて勉強会を開催する。
No,11 林業加工品の販売促進	第１四半期	○	・新商品企画開発：9月の海外展示会に向けて新商品開発を実施する予定であったが、計画がずれ込んできたので1月の海外展示会に目標を変更。コンペの開催は7月以降。 ・販売戦略：コンペを依頼する日本総研とコンペ内容を検討する中で、今後の販売戦略を検討する予定。
	第２四半期（上半期）	△	・事業認定の遅れにより、コンペの実施時期がずれ込んだ。また、新型インフルエンザの流行により、海外展示会への参加を見送り1月の展示会1回のみとする。（インフルエンザの流行の状況によっては中止）
No,12 キンメダイのブランド化に向けた取組	第１四半期	△	・作業部会は予定どおり進行したが、補助事業案の最終決定を行う「室戸水産業改良普及協議会」通常総会は7月にずれ込んだ。このため、審査会は8月にずれ込む見込み。
	第２四半期（上半期）	△	・「産業振興推進総合支援事業」審査会への採択申請を見合わせて、水産振興部の「水産業総合支援事業」に申請することとなった。 今後、10月初旬の同事業審査会に向けた準備を進める。
No,13 スジアオノリのブランド化の取組	第１四半期	△	・関係者との打ち合わせスジアオノリ養殖支援チーム検討会の開催が延び延びになっていたが6月25日に開催決定。 ・補助事業審査会は8月にずれ込む見込み。
	第２四半期（上半期）	△	・「産業振興推進総合支援事業」審査会への採択申請を見合わせて、水産振興部の「水産業総合支援事業」に申請することとなった。 今後、10月初旬の同事業審査会に向けた準備を進める。
No,14 低価格な定置網漁獲物の販売戦略	第１四半期	△	・ハード整備事業に関する資料の準備は進んでいるが、地元調整についてはまだ個別に関係者と下話している段階。
	第２四半期（上半期）	△	・加工業者と漁協との事業連携についての協議がまだ十分でないため、「産業振興推進総合支援事業費補助金」事業審査会への申請は9月に延期した。 ・今後、9月の審査会に向けて、関係者協議による事業内容の詰めと資料作成などの準備を行う。
No,15 新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上	第１四半期	○	・当期において、アクションプランの熱度を高めていく体制が整って、アカムツ漁業の導入とシラス魚価向上、それぞれに熱度を高める活動を展開し始めた。 ・翌四半期に向けてはできる限りのこれらの活動の展開を促し、青年漁業者たちの参画を促すと共に支援策の受け入れ体制整備と支援策の実施を目指す。
	第２四半期（上半期）	◎	・自然条件に影響されるアカムツ深海網の遅延はやむを得ないものの、シラス魚価向上の取組はほぼ計画どおり進展している。第3四半期では民間企業参入も視野に広範囲となる。シラス魚価向上に取り組む検討・実行組織づくりにも改めて取り組むこととなった。このため、これまでの支援活動に加え関係者のコンセンサス形成づくりに向けて効果的な活動展開を行っていく。
No,16 「加領郷」ブランドによる地域の活性化	第１四半期	○	・ほぼ計画どおり進捗している。7月の審査会に向けて資料づくりなどの早急な作業が必要である。
	第２四半期（上半期）	△	・「産業振興推進総合支援事業」審査会への採択申請を見合わせて、水産振興部の「水産業総合支援事業」に申請することとなった。 今後、10月初旬の同事業審査会に向けた準備を進める。

No,17 河川の周年利用による地域経済の活性化	第1四半期	○	・地元関係者との協力により，年度当初からの現地調査が開始できた。翌四半期に向けては調査計画に沿って現地調査を継続し，半期に地元関係者への中間報告を行う。
	第2四半期（上半期）	◎	・当初の計画に沿った現地調査が実施でき，データ、サンプルも予定どおり収集できた。9月中にチーム会をかわた地元関係者への報告会を行う。
No,18 海洋深層水の利用拡大	第1四半期	○	・企業・研究機関等の関係者と具体的な「産官学連携の共同研究テーマ」の設定に取り組む。
	第2四半期（上半期）	◎	・新規深層水利用企業の拡大、新規研究開発のJST向け助成申請を実施。 ・引き続き、利用拡大の支援を実施する。
No,19 新たな地域資源としてリュウゼツランの活用の検討	第1四半期	○	・8月末の検討会に向け、成分分析等の準備を行う。
	第2四半期（上半期）	◎	・採取許可申請等の遅れにより、成分分析が遅れており、8月末予定の検討協議会を9月中旬から下旬に遅らせて実施する。
No,20 海の駅「東洋町」の活性化	第1四半期	○	・海の駅の運営会社「リボルト」の体制等を見ながら、今後の展開を考える。
	第2四半期（上半期）	△	・周辺施設（自然休養村）との連携を含めて今後の展開を考える。
No,21 道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)	第1四半期	△	・事業実施の前提要件である加工施設指定管理者が未確定。本格的な事業スタートは第2四半期からの予定。
	第2四半期（上半期）	△	・特産品開発・販売については、保留となった加工施設の指定管理とは別建てで町内事業者に委託することよりスタートする方向となったが、事業計画の日程的な部分は全て練り直しとなる。円滑な事業実施に向けて早急に見直しを行う。 ・田野駅屋の施設拡張及び機能強化については、期日的な遅れは生じたが計画どおり実施することとしており、年度内に完遂できるよう進捗管理を行っていく。
No,22 体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備	第1四半期	○	・第1四半期中に仕様の確定と契約を締結し、商品化に着手する。第2四半期は、観光素材の収録と秋の観光プロモーションに向けて素材集を完成させる必要があり、着実な事業の進捗を期す。
	第2四半期（上半期）	○	・素材集については予定通り、PRDVDについては天候不順で撮影スケジュール遅延模様。商品化検討会については素材集に併せて完成する予定であり、概ね順調な進捗。
No,23 地質資源を活かした交流人口の増加(世界ジオパーク認証に向けた取組)	第1四半期	○	・世界ジオに向けての申請まで行った。観光協会の事務局体制もふるさと雇用を活用し強化された。今後、決定した産振補助金を活用して整備等を行うとともに、「いつまで何をやるか」をより明確に取り組んでいく必要がある
	第2四半期（上半期）	○	・ソフト・ハード施策ともに着実に進捗しているものの、若干の遅れ気味である点と地域の参画(特にガイド)についてなお一層の工夫と努力が必要。
No,24 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大	第1四半期	○	・ほぼ予定どうりの進捗。漁協・漁民との調整を早期に行う。
	第2四半期（上半期）	○	・イルカについては、予定とおりの進捗、補助事業部分はほぼ終了した。 ・ダイビングについては、漁協への説明等進捗が遅れている。
No,25 シレストむろとを核とした健康観光産業	第1四半期	○	・地方の元気再生事業の契約後、速やかに事業推進スタッフの雇用及び事業実施に向けてのスケジュール調整、役割分担を行っていく。
	第2四半期（上半期）	◎	・計画に沿ったワーキングの実施や早期の旅行商品販売開始など順調に進捗している。
No,26 龍馬伝に関連した特産品開発や周遊ルートの確立等	第1四半期	○	・第1四半期は、活用する補助制度をめぐって多少混乱があったが、第1四半期中に安芸をこじゃんと元気にする事業の公募を開始することができた。第2四半期においては、応募のあったアイディアを厳選し、特産品開発や付加価値を高める取り組みを具体化していくことが主要な課題となる。
	第2四半期（上半期）	○	・当年度中、放映期間中、放映終了後の誘客の個々の取り組みについて、実施主体、方法、時期等を明確にしたスケジュールを明確にする必要がある。
No,27 スポーツキャンプのまちづくり	第1四半期	△	・新型インフルエンザへの対応により、第1四半期は予定通り進捗しなかったが、第2四半期に向けて阪神球団との調整を主として遅れを取り戻すよう取り組む必要がある。
	第2四半期（上半期）	○	・改修内容について、再度精査することとしたため予定より遅れているものの、施設の利便性等の向上のためのタイムラグでありやむを得ないと考える。
No,28 ダイビングの受け皿づくりによる交流人口の拡大	第1四半期	○	・第1回の意見交換会を予定より早めに実施。室戸の活動の情報共有しながら、今後の展開を考えていく。
	第2四半期（上半期）	△	・室戸の活動の情報共有しながら、今後の展開を考えていく。
No,29 魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大	第1四半期	○	・各地域において、ガイド研修を活発に行ったり、マスコミ媒体を活かしたPRに積極的に取り組むなど実施主体の活動が活発化してきた。第2四半期以降は、モニターの受入など実戦形式で地域の受入力のスキルアップを図っていく必要がある。
	第2四半期（上半期）	○	・ガイド先進地からの講師招聘や商業ベースのツアー受入の実績が出てきた。県外事務所から林業関係、鉄道関係の問い合わせや広報協力の申し出もあるとのことであり、今後の来訪者増に備えなお一層のPRと受入体性の充実が必要。
No,30 ふるさと海岸を中心とする海洋資源を活用した観光事業	第1四半期	○	・ワークショップの開催時期が遅れたが、スタートし始めた。翌四半期にはより具体的な検討に入っていく。
	第2四半期（上半期）	○	・(仮)海浜センターの大筋も決まり、今後はセンターの管理運営先の選定等に入っていく。
No,31 体験型観光への取組～大野台地は、えいところ！～	第1四半期	○	・体験メニューのブラッシュアップは、実際に団体を受け入れて実践的に進めていく必要があり、そういう点からも7月の稲田塾受入に向けて全力で取り組んでいる。第2四半期は、受入の反省を含めて体験メニューの改善と商品化を進めていく。
	第2四半期（上半期）	○	・大野台地における体験型観光受入れのテストケースとも言える7月の稲田塾受入れは、過密なスケジュール設定、進行管理の甘さ、人員配置の不備等、様々な反省点が挙げられるが、概ね好評ではあり、一定の手ごたえは得られた。今後の体験メニュー策定にあたり大いに参考とできるものであったと言え、この経験を踏まえて本事業に臨んでいく。
No,32 安田川の清流資源を活かした交流人口の拡大	第1四半期	△	・事業実施主体の異動により第1四半期の進捗は遅れている。安田町と馬路村のそれぞれの取り組みと狙いの明確化と両町村が連携できる部分を明確にする必要がある。
	第2四半期（上半期）	△	・馬路安田の事業の合意とそれぞれの事業内容の確認協力はできたものの、安田サイドの事業の具体化が遅れており早急に対応していく必要がある。
No,33 古民家と地場産品販売施設等を活かした交流人口の拡大	第1四半期	○	・産業振興補助金採択 ・安田町まちなみ雑踏衆とも古民家の活用について、検討を開始 ・来四半期以降、住民の取組など、ソフトを中心に支援を行う。
	第2四半期（上半期）	◎	・安田町まちなみ雑踏衆を中心として、ガイド研修等を行うとともに、周辺町村と連携した活用を検討
No,34 龍馬伝を活かした観光振興	第1四半期	○	・第1四半期は、慎太郎顕彰会が慎太郎館前に物販スペースを開設したことが最も大きな前進であった。第2四半期は、龍馬であい博アドバイザーのアドバイスを活かして、幕末維新村構想の具体化が課題。
	第2四半期（上半期）	○	・産業振興補助金への申請の過程でソフト・ハード施策、実施主体、スケジュール等誘客に必要な事項の整理が出来たので、今後取り組みが加速することが期待できる。